

表2 識別指数(対臨床実習評価)順にみた模擬臨床実地問題の概要

領域	通し番号	カテゴリー	解答形式	国試年度	正答率	識別指数 (対模擬問題正答率)	識別指数 (対臨床実習評価)
補綴系	23	①	A	第105回	66.9%	0.42	0.26
保存系	8	③	A	第105回	75.2%	0.25	0.25
補綴系	30	④	XX	第104回	79.3%	0.38	0.24
保存系	12	④	X2	第103回	89.0%	0.08	0.23
補綴系	25	②	X2	第101回	84.1%	0.27	0.22
口外系	43	②	A	第102回	81.4%	0.14	0.21
補綴系	31	④	A	第105回	95.2%	0.00	0.21
保存系	20	⑤	A	新作	65.5%	0.35	0.20
補綴系	37	③	XX	新作	60.7%	0.17	0.20
保存系	1	①	X2	第101回	65.5%	0.35	0.20
補綴系	34	⑤	A	第104回	74.5%	0.16	0.19
保存系	18	⑤	A	新作	62.8%	0.33	0.17
保存系	13	⑤	X2	第103回	41.4%	0.33	0.17
口外系	40	①	A	第103回	88.3%	0.40	0.15
保存系	4	②	A	第101回	62.8%	0.32	0.15
保存系	7	③	X2	第102回	60.7%	0.40	0.14
口外系	51	⑤	A	第102回	83.4%	0.21	0.14
保存系	2	①	X2	第105回	54.5%	0.50	0.14
保存系	9	③	X2	第103回	77.9%	0.29	0.13
保存系	5	②	A	第103回	89.7%	0.29	0.13
口外系	44	③	A	第103回	69.0%	0.43	0.12
口外系	39	①	A	第104回	66.2%	0.20	0.11
補綴系	28	③	A	第103回	86.9%	0.45	0.11
補綴系	29	③	A	第104回	84.1%	0.24	0.11
口外系	42	②	A	第104回	77.9%	0.54	0.10
補綴系	22	①	X2	第104回	82.8%	0.30	0.10
補綴系	35	⑤	X2	第104回	78.6%	0.51	0.10
補綴系	33	⑤	A	第104回	90.3%	-0.09	0.09
補綴系	21	①	X2	第101回	44.8%	0.61	0.08
補綴系	26	②	X2	第103回	82.1%	0.44	0.07
口外系	54	⑤	XX	新作	22.8%	0.35	0.07
保存系	3	①	X2	第102回	73.8%	0.26	0.06
口外系	41	②	X2	第101回	11.7%	0.30	0.05
補綴系	32	④	X2	第102回	84.1%	0.08	0.04
保存系	15	⑤	A	第105回	83.4%	-0.21	0.04
補綴系	24	②	A	第104回	86.2%	0.07	0.03
保存系	19	④	X2	新作	73.8%	0.52	0.03
口外系	46	④	A	第104回	75.2%	0.37	0.03
口外系	50	⑤	A	第103回	71.7%	0.00	0.03
口外系	49	⑤	A	第105回	69.7%	0.65	0.03
口外系	45	③	X2	第102回	73.1%	0.51	0.03
保存系	14	⑤	X2	第104回	70.3%	-0.15	0.03
補綴系	36	③	XX	新作	31.7%	0.42	0.00
口外系	53	①	XX	新作	42.8%	0.42	0.00
口外系	47	④	A	第105回	89.0%	0.32	0.00
保存系	6	②	X2	第104回	52.4%	0.42	-0.03
保存系	10	④	X2	第104回	66.2%	0.41	-0.03
保存系	11	④	A	第105回	72.4%	0.19	-0.06
口外系	48	④	A	第104回	84.1%	0.32	-0.07
口外系	38	①	A	第103回	93.1%	0.12	-0.10
口外系	52	④	A	新作	58.6%	-0.03	-0.11
保存系	17	④	A	新作	96.6%	-0.17	-0.17
補綴系	27	③	A	第103回	70.3%	0.27	-0.19
保存系	16	④	A	新作	57.2%	0.20	-0.20

表3 相関分析(pearson)の有意確率準にみた模擬臨床実地問題の概要

領域	通し番号	カテゴリー	解答形式	国試年度	正答率	Pearson 相関係数	有意確率
補綴系	23	①	A	第105回	66.9%	0.21	0.01
保存系	8	③	A	第105回	75.2%	0.20	0.02
保存系	12	④	X2	第103回	89.0%	0.20	0.02
補綴系	25	②	X2	第101回	84.1%	0.16	0.06
口外系	39	①	A	第104回	66.2%	0.14	0.10
口外系	51	⑤	A	第102回	83.4%	0.13	0.11
保存系	5	②	A	第103回	89.7%	0.13	0.12
保存系	2	①	X2	第105回	54.5%	0.13	0.12
補綴系	34	⑤	A	第104回	74.5%	0.13	0.12
補綴系	30	④	XX	第104回	79.3%	0.13	0.13
保存系	9	③	X2	第103回	77.9%	0.12	0.14
口外系	43	②	A	第102回	81.4%	0.12	0.14
補綴系	37	③	XX	新作	60.7%	0.12	0.16
保存系	20	⑤	A	新作	65.5%	0.12	0.16
保存系	16	④	A	新作	57.2%	-0.11	0.17
保存系	13	⑤	X2	第103回	41.4%	0.11	0.18
補綴系	31	④	A	第105回	95.2%	0.11	0.19
口外系	42	②	A	第104回	77.9%	0.11	0.19
補綴系	29	③	A	第104回	84.1%	0.11	0.20
保存系	18	⑤	A	新作	62.8%	0.10	0.21
保存系	7	③	X2	第102回	60.7%	0.10	0.23
口外系	48	④	A	第104回	84.1%	-0.09	0.27
補綴系	22	①	X2	第104回	82.8%	0.09	0.29
補綴系	27	③	A	第103回	70.3%	-0.08	0.33
口外系	40	①	A	第103回	88.3%	0.08	0.34
口外系	44	③	A	第103回	69.0%	0.08	0.36
保存系	17	④	A	新作	96.6%	-0.08	0.37
保存系	1	①	X2	第101回	65.5%	0.07	0.39
補綴系	28	③	A	第103回	86.9%	0.07	0.41
保存系	15	⑤	A	第105回	83.4%	0.07	0.42
口外系	50	⑤	A	第103回	71.7%	0.06	0.44
口外系	52	④	A	新作	58.6%	-0.06	0.46
保存系	11	④	A	第105回	72.4%	0.06	0.51
補綴系	24	②	A	第104回	86.2%	0.05	0.51
補綴系	35	⑤	X2	第104回	78.6%	0.05	0.55
保存系	3	①	X2	第102回	73.8%	0.05	0.55
補綴系	26	②	X2	第103回	82.1%	0.04	0.59
口外系	49	⑤	A	第105回	69.7%	0.04	0.62
口外系	47	④	A	第105回	89.0%	0.04	0.63
保存系	14	⑤	X2	第104回	70.3%	0.04	0.63
補綴系	32	④	X2	第102回	84.1%	0.04	0.66
補綴系	33	⑤	A	第104回	90.3%	0.03	0.68
補綴系	36	③	XX	新作	31.7%	-0.03	0.71
保存系	4	②	A	第101回	62.8%	0.03	0.72
口外系	45	③	X2	第102回	73.1%	0.03	0.73
補綴系	21	①	X2	第101回	44.8%	-0.02	0.82
口外系	38	①	A	第103回	93.1%	-0.02	0.83
保存系	19	④	X2	新作	73.8%	0.01	0.87
口外系	41	②	X2	第101回	11.7%	0.01	0.91
保存系	6	②	X2	第104回	52.4%	-0.01	0.93
口外系	53	①	XX	新作	42.8%	0.01	0.94
口外系	54	⑤	XX	新作	22.8%	0.00	0.96
保存系	10	④	X2	第104回	66.2%	0.00	0.98
口外系	46	④	A	第104回	75.2%	0.00	0.99

## 添付資料

# 模擬試験問題

保存系 問 1～20

補綴系 問21～37

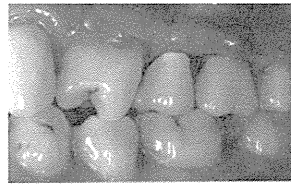
口腔外科系 問38～54

保存系一問1、4

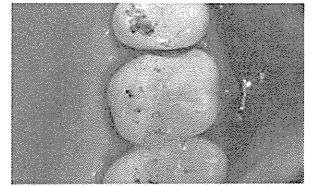
次の文により1、4の問いに答えよ。

52歳の男性。上顎左側第一大臼歯の咬合痛を主訴として来院した。同部の歯冠補綴装置は10年前に装着し、良好に経過していたが、半年前から時々痛みがあるという。初診時の口腔内写真(A)、咬合接触状態(B)及び瘻孔にガッターチャポイントを挿入して撮影したエックス線写真(C)を別に示す。

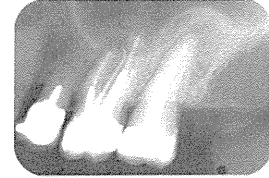
保存系一問1、4



写真A



写真B



写真C

保存系一問1、4

問1 咬合痛の原因として考えられるのはどれか。2つ選べ。

- a 根尖性歯周炎
- b 髄床底の穿孔
- c 歯根骨折
- d 歯冠補綴装置の過高
- e 歯冠補綴装置の破損

問4 ⑥ に行う適切な処置はどれか。

- a 咬合調整
- b 再根管治療後、再歯冠補綴
- c トライセクション後、再歯冠補綴
- d トンネリング後、再歯冠補綴
- e 拔牙後、⑤⑥⑦ブリッジ装着

保存系一問2

問2 29歳の男性。下顎右側大白歯部のブラッシング時の出血を主訴として来院した。数年前から食片圧入があるという。初診時の口腔内写真(A)とエックス線写真(B)とを別に示す。歯周組織検査結果の一部を表に示す。

頬側※	3	2	4	3	2	2
歯種	7			6		
口蓋側※	3	2	5	3	2	2
動揺度※※	0			0		

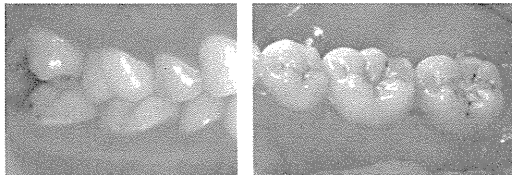
※: 歯周ポケットの深さ(mm)

※※: Millerの判定基準

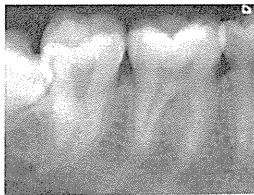
次に行うのはどれか。2つ選べ。

- a 口臭の検査
- b 歯周離開度検査
- c 付着歯肉幅の検査
- d 歯周ポケット内の細菌検査
- e 研究用模型による咬合診査

保存系一問2



写真A



写真B

保存系一問3

問3 61歳の男性。上顎前歯の動揺と正中離開の増大を主訴として来院した。初診時の口腔内写真(A)とエックス線写真(B)とを別に示す。歯周組織検査結果の一部を表に示す。

頬側※	2	2	6	3	2	2
歯種	11			11		
口蓋側※	2	5	8	3	2	2
動揺度	1			1		

※: 歯周ポケットの深さ(mm)

病態の増悪因子はどれか。2つ選べ。

- a 口呼吸
- b 食片圧入
- c 外傷性咬合
- d 根尖性歯周炎
- e 上唇小帯の高位付着

保存系-問3



写真A



写真B

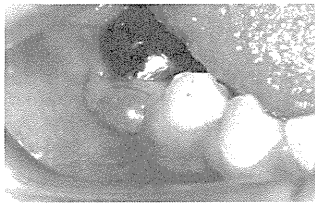
保存系-問5

問5 9歳の男児。下顎右側第二乳臼歯歯肉の腫脹を主訴として来院した。自発痛はなく、繰り返し膿瘍を形成するという。右下Eの動揺は2度で打診痛を認める。初診時の口腔内写真(A)とエックス線写真(B)とを別に示す。

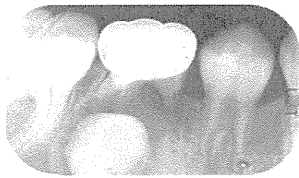
適切な対応はどれか。1つ選べ。

- a 乳歯冠の除去
- b 歯肉腫脹部の切除
- c 右下Eの除去
- d 右下Eの根尖切除
- e 右下Eの根管開放

保存系-問5



写真A



写真B

保存系-問6

問6 55歳の女性。歯周病の治療を希望して来院した。歯周基本治療後に歯周ポケットはすべて3mm以下となったが、下顎右側小臼歯部のブラッシング時の疼痛や違和感が認められたため、歯周外科手術を行った。歯周基本治療後の暫間被覆冠を除去した時の口腔内写真(A)と術直後の口腔内写真(B)とを別に示す。

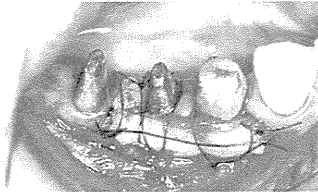
手術の目的はどれか。2つ選べ。

- a 審美性の回復
- b 口腔前庭の拡張
- c 角化歯肉幅の増大
- d 可動性粘膜の増大
- e アタッチメントの獲得

保存系-問6



写真A



写真B

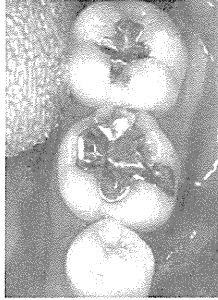
保存系-問7

問7 31歳の男性。下顎左側第一大臼歯の拍動性の自発痛を主訴として来院した。数年前から疲労時に痛みと頬側歯肉内部の腫脹とが度々起こるといふ。初診時の写真(A)、エックス線写真(B)及び髓室開拡後の写真(C)を別に示す。

正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 3根管である。
- b 近心側の髓室壁が過剰に削除されている。
- c 根管口をラウンドバーで拡大する。
- d 根管長測定時には偏心投影で撮影する。
- e Kファイルで根管を穿通し排膿を試みる。

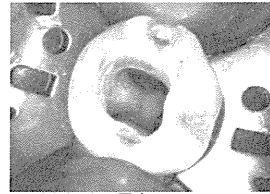
保存系-問7



写真A



写真B



写真C

保存系-問8

問8 55歳の男性。下顎左側第一大臼歯の疼痛を主訴として来院した。不可逆性の歯髄炎と診断し、抜髄を行うこととした。初診時のエックス線写真(A)と処置中の口腔内写真(B)とを別に示す。

次に行うのはどれか。1つ選べ。

- a 天蓋の除去
- b 作業長の測定
- c 根部歯髄の除去
- d 根管消毒剤の貼葉
- e 根管口のロート状拡大

保存系-問8



写真A



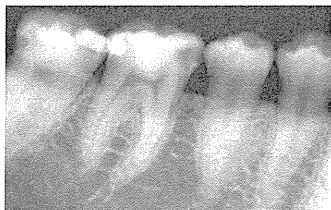
写真B

保存系-問9、12

次の文により9、12の問いに答えよ。

34歳の女性。下顎右側第一大臼歯の冷水痛を主訴として来院した。2週間前から一過性の冷水痛を自覚するようになったという。電気診に正常に反応する。コンポジットレジンで修復することとした。初診時のエックス線写真(A)と感染象牙質除去後の口腔内写真(B)とを別に示す。

保存系-問9、12



写真A



写真B

保存系-問9、12

問9 窩洞形成で適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 頬側への開放
- b 舌側への開放
- c 小窩裂溝部への拡大
- d 咬合面窩洞辺縁のベベル形成
- e 歯肉側壁エナメル質の白濁部除去

問12 修復に必要なのはどれか。2つ選べ。

- a ウェッジ
- b 圧排用綿糸
- c セメント裏層器
- d マトリックスバンド
- e サービカルマトリックス

保存系一問10

問10 24歳の男性。上顎右側第二小臼歯の違和感を主訴として来院した。初診時の口腔内写真(A)、エックス線写真(B)を下に、器具の写真(C)を別に示す。

検査に使用するのはどれか。2つ選べ。

- a ア
- b イ
- c ウ
- d エ
- e オ

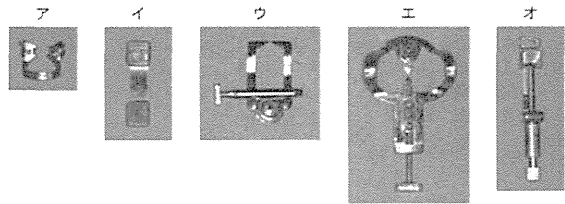


写真A



写真B

保存系一問10



写真C

保存系一問11

問11 35歳の女性。上顎右側側切歯の審美障害を主訴として来院した。コンボジットレジンを用いた直接ベニア修復を行うこととした。初診時と修復後の口腔内写真(A、B)を別に示す。

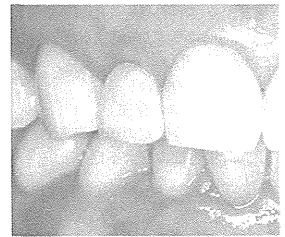
歯面処理剤として用いたのはどれか。1つ選べ。

- a リン酸
- b フッ化水素酸
- c ポリアクリル酸
- d デンティンプライマー
- e シランカップリング剤

保存系一問11



写真A(初診時)



写真B(修復後)

保存系一問13

問13 6歳の男児。下顎前歯の形態異常を主訴として来院した。経過観察を行っている。初診時の口腔内写真(A)とエックス線写真(B)とを別に示す。

定期健診時に留意すべきなのはどれか。2つ選べ。

- a 齧 蝕
- b 咬 耗
- c 歯冠破折
- d 歯髄感染
- e 生理的歯根吸収

保存系一問13



写真A



写真B

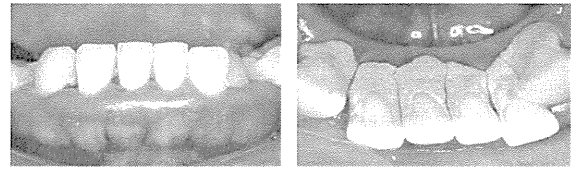
保存系-問14

問14 41歳の女性。下顎前歯の歯肉の腫れを主訴として来院した。ブラッシング指導に続いて歯肉縁上歯石除去を行うこととした。初診時の口腔内写真(A)とエックス線写真(B)とを別に示す。

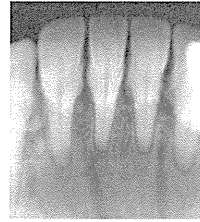
歯石除去後に発現しやすいのはどれか。2つ選べ。

- a 歯の動揺
- b 歯肉の発赤
- c 歯肉の増殖
- d 歯の舌側傾斜
- e 象牙質知覚過敏症

保存系-問14



写真A



写真B

保存系-問15

問15 58歳の男性。上顎右側第一小臼歯の痛みを主訴として来院した。根管充填前にマスターポイント試適を行うこととし、ポイントを作業長に合わせ折り曲げた。初診時のエックス線写真(A)、ポイントを先に口蓋根管に挿入したときの口腔内写真(B)及びポイントを先に頬側根管に挿入したときの口腔内写真(C)を別に示す。

試適時の所見から考えられるのはどれか。1つ選べ。

- a 穿孔
- b 根管の癒合
- c イスマスの存在
- d 作業長設定の誤り
- e 根尖部の拡大不足

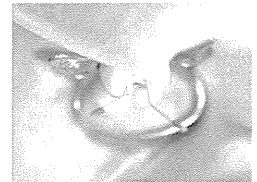
保存系-問15



写真A



写真B



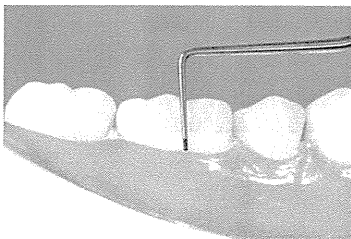
写真C

保存系-問16

問16 WHOプローブを用いた検査時の写真を下に示す。

CPIコードはどれか。

- a 0
- b 1
- c 2
- d 3
- e 4



保存系-問17

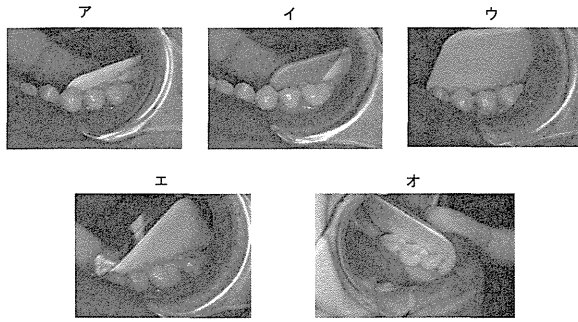
問17 25歳の男性。下顎左側第1大臼歯の冷水痛を主訴として来院した。同部の精査のために口内法エックス線検査を行うこととした。検査時の写真を別に示す。

フィルムの位置づけで正しいのはどれか。1つ選べ。

- a ア
- b イ
- c ウ
- d エ
- e オ



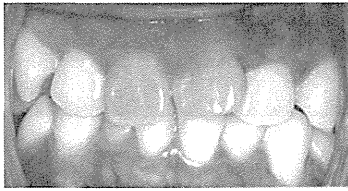
保存系-問17



保存系-問19

問19 32歳の男性。上顎前歯部の審美障害を主訴として来院した。口腔内写真を下に示す。5年前に抜髄処置を受けたという。漂白処置をすることになった。用いるのはどれか。2つ選べ。

- a 過塩素酸
- b 過酸化尿素
- c 過酸化水素水
- d 過酸化ナトリウム
- e 過ホウ酸ナトリウム



補綴系-問21

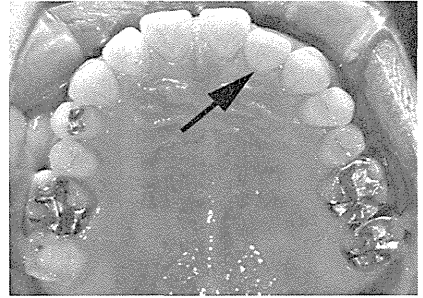
問21 60歳の男性。咀嚼時および会話時における上顎全部床義歯の脱離を主訴として来院した。脱離は新義歯装着直後からあるという。義歯の写真(A)、義歯装着時の口腔内写真(B)及び義歯安定性試験時の写真(C、D)を別に示す。考えられる原因はどれか。2つ選べ。

- a 咬合平面の傾き
- b 上顎義歯後縁の位置
- c 前歯部の排列位置
- d 臼歯部の排列位置
- e 上顎臼歯部の床縁形態

保存系-問18

問18 上顎の口腔内写真(ミラー像)を下に示す。矢印で示す歯に特徴的な齶蝕好発部位はどれか。1つ選べ。

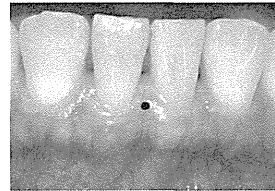
- a 歯帯
- b 盲孔
- c 棘突起
- d 斜切痕
- e 中心結節



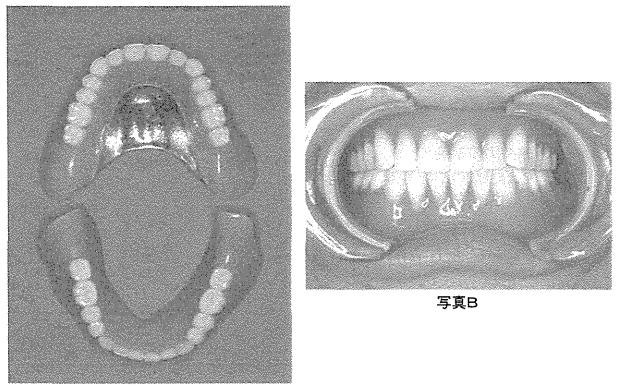
保存系-問20

問20 下顎前歯部の口腔内写真を下に示す。●印で示す部分に針を刺入して浸潤麻酔を行ったところ、刺入点から薬液が口腔内に漏れたという。

- 原因として考えられるのはどれか。1つ選べ。
- a 粘膜筋板の欠如
  - b 粘膜上皮の角化
  - c 粘膜下組織の欠如
  - d ステップリングの存在
  - e 粘膜固有層の膠原線維の配列状態



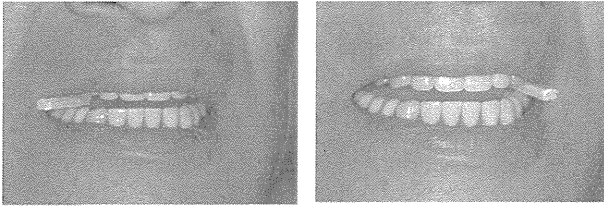
補綴系-問21



写真A

写真B

補綴系一問21



写真C

写真D

補綴系一問22

問22 21歳の女性。審美障害を主訴として来院した。半年前、交通事故で前歯を喪失したという。口腔内写真(A)とエックス線写真(B)とを別に示す。

補綴治療にあたり問題となるのはどれか。2つ選べ。

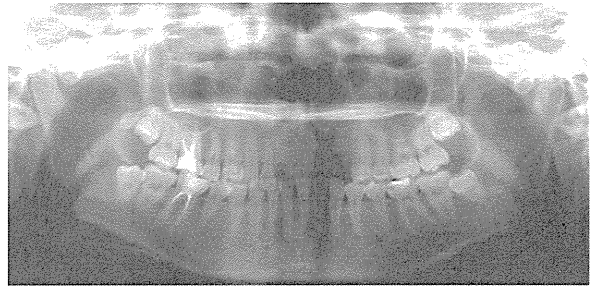
- a 口蓋隆起
- b 智歯の萌出状態
- c 対合歯との間隙
- d 切歯乳頭の位置
- e 唇側歯槽突起の欠損

補綴系一問22



写真A

補綴系一問22



写真B

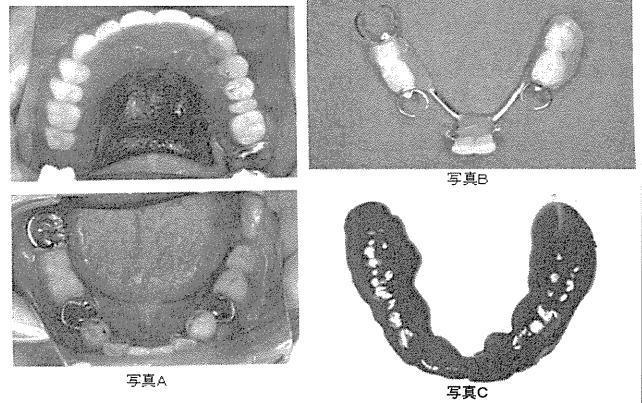
補綴系一問23

問23 78歳の男性。咀嚼時の下顎臼歯部の痛みを主訴として来院した。義歯は安定しているが、これまでも時々、同様の痛みがあったという。初診時の口腔内写真(A)、下顎義歯の写真(B)及び咬合接触検査の結果(C)を別に示す。

考えられる原因はどれか。1つ選べ。

- a レストの不足
- b 人工歯の磨耗
- c 維持力の不足
- d 咬合接触の不均衡
- e 義歯床後縁位置の不良

補綴系一問23



写真A

写真B

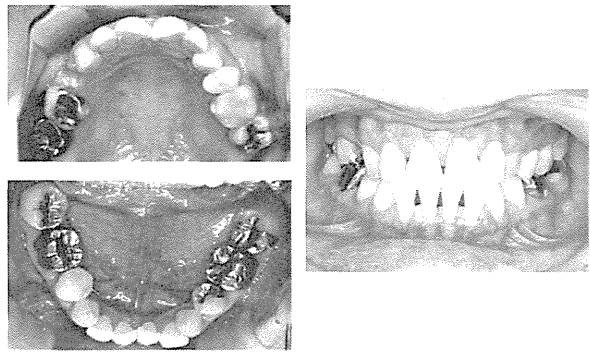
写真C

補綴系一問24

問24 35歳の女性。咀嚼障害を主訴として来院した。6か月前に歯根破折のため上顎右側第二小臼歯を抜去し、その後放置していたという。ブリッジによる治療を行うこととした。初診時の口腔内写真(A)とエックス線写真(B)とを別に示す。ブリッジの設計で適切なのはどれか。1つ選べ。

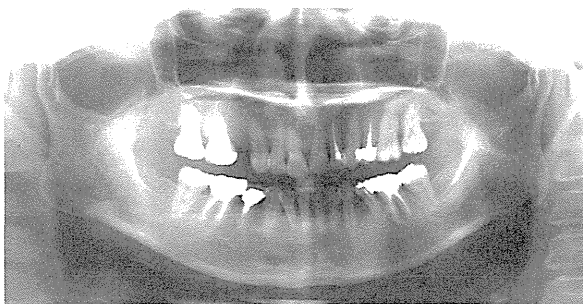
	右上6番支台装置	右上3番支台装置	連結法
a	全部铸造冠	硬質レジン前装冠	固定性
b	プロキシマルハーフクラウン	ジャケットクラウン	固定性
c	4/5冠	継続歯	半固定性
d	陶材焼付铸造冠	3/4冠	半固定性
e	7/8冠	ピンレッジ	可撤性

補綴系一問24



写真A

補綴系一問24



写真B

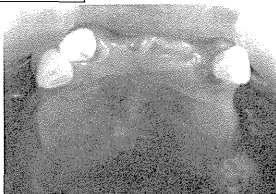
補綴系一問25

問25 76歳の女性。上下顎部分床義歯を製作することとした。口腔内写真(A、B、C)を別に示す。

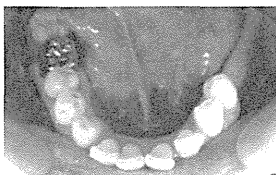
考慮するのはどれか。2つ選べ。

- 咬合高径を決定する。
- 上顎義歯床面積を小さくする。
- ゴシックアーチ描記法を用いる。
- 上顎前歯部は無圧印象を行う。
- 上顎義歯にはレストを付与しない。

補綴系一問25



写真A



写真B



写真C

補綴系一問26

問26 64歳の女性。咀嚼時の義歯の維持不良を主訴として来院した。新義歯装着時の写真(A)と口腔内写真(B、C)とを別に示す。

写真Cの状況を悪化させないための患者指導として適切なのはどれか。

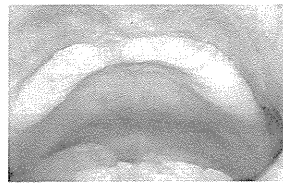
2つ選べ。

- 義歯安定材を使用する。
- 前歯部でものを噛まない。
- 食後に義歯を清掃する。
- 定期的なリコールに応じる。
- 就寝時には下顎の義歯を外す。

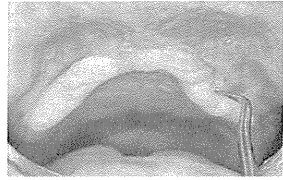
補綴系一問26



写真A



写真B



写真C

補綴系一問27

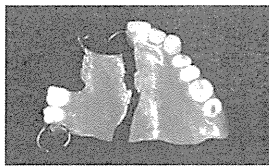
問27 56歳の男性。上顎義歯の破折と審美障害とを主訴として来院した。床義歯の上 顎右側犬歯部は以前に破折していたが、破折部を保管中に紛失したという。模型を製作して人工歯の追加と義歯破折部の修理を行うこととした。破折した義歯の写真(A)と口腔内写真(B)とを別に示す。行うべき手技を表に示す。

- |                |
|----------------|
| ① 咬合採得         |
| ② 上顎の印象採得      |
| ③ 下顎の印象採得      |
| ④ 破折義歯の仮接合     |
| ⑤ 破折義歯の口腔内への設置 |

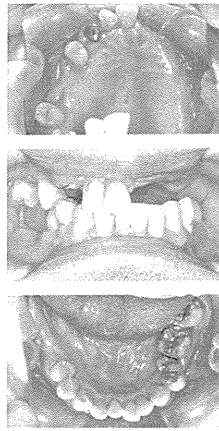
適切な順番はどれか。1つ選べ。

- a ③→⑤→④→②→①
- b ③→⑤→②→④→①
- c ⑤→②→③→①→④
- d ⑤→④→①→②→③
- e ②→③→⑤→④→①

補綴系一問27



写真A



写真B

補綴系一問28

問28 71歳の男性。上下顎全部床義歯の製作を希望して来院した。診療中の写真(A)を別に示す

次に行うのはどれか。1つ選べ。

- a 最終印象
- b 人工歯選択
- c 表示線の記入
- d 水平的顎位の決定
- e 垂直的顎位の決定

補綴系一問28

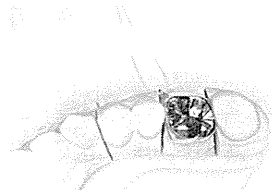


写真A

補綴系一問29

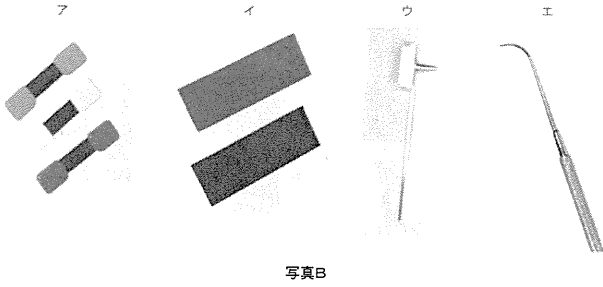
問29 40歳の女性。上顎左側第一大臼歯部の食片圧入を主訴として来院した。新製した铸造冠(A)の写真を下に、合着時に使用する器具の写真(B)を別に示す。用具使用の手順で正しいのはどれか。1つ選べ。

- a アーウーエーイ
- b イーウーエーア
- c ウーエーアーイ
- d エーウーイーア
- e アーエーイーウ



写真A

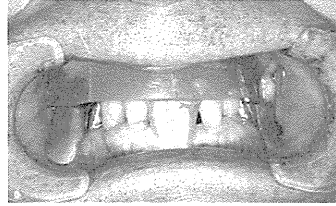
補綴系-問29



補綴系-問30

問30 68歳の男性。義歯不適合による咀嚼障害を主訴として来院した。部分床義歯製作中のある過程の写真を下に示す。  
このときに行うのはどれか。すべて選べ。

- a 筋圧形成
- b 顎間関係の記録
- c 人工歯の色調選択
- d 仮想咬合平面の設定
- e 咬合堤の唇側豊隆の設定



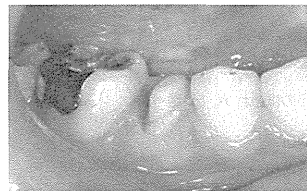
補綴系-問31

問31 40歳の女性。下顎右側第二小臼歯のポーセレンジャケットクラウンを製作することとした。支台歯の口腔内写真(A)とポーセレンジャケットクラウンの写真(B)とを別に示す。

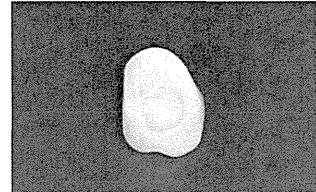
支台歯とポーセレンジャケットクラウンとに共通して行うのはどれか。1つ選べ。

- a スズ電析処理
- b フッ化水素酸処理
- c メタルプライマー
- d シランカップリング処理
- e デンティンプライマー処理

補綴系-問31



写真A



写真B

補綴系-問32

問32 73歳の女性。全部床義歯製作中の側貌写真を下に示す。ある基準平面に平行に仮想咬合平面を決定することとした。

この基準平面の決定に用いる点はどれか。2つ選べ。

- a ア
- b イ
- c ウ
- d エ
- e オ



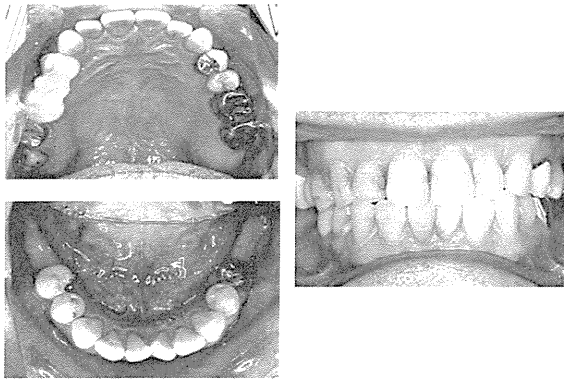
補綴系-問33

問33 60歳の男性。咀嚼障害を主訴として来院した。部分床義歯を製作することとした。フレームワークを試適したところ、支台装置は適合したが、前歯部舌側歯肉に圧迫感を訴えた。口腔内写真(A)、口腔内と模型とにフレームワークを装着した写真(B)及び適合試験の写真(C)を別に示す。

原因として考えられるのはどれか。1つ選べ。

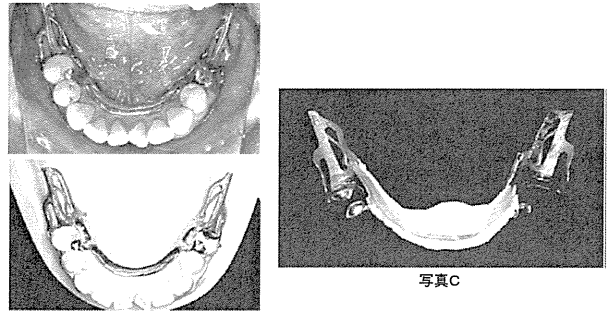
- a 印象時に加圧しすぎた。
- b 印象材の撤去が早かった。
- c 咬合採得が不適切であった。
- d 鑄造時にオーバーヒートした。
- e 印象材が個人トレーからはがれた。

補綴系一問33



写真A

補綴系一問33



写真B

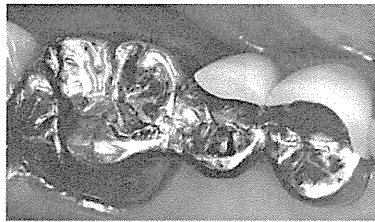
写真C

補綴系一問34

問34 45歳の男性。上顎右側第二小臼歯欠損による審美障害を主訴として来院した。陶材焼付ブリッジによる治療を行うこととした。装着後の口腔内写真を下に示す。

最も低い温度で行うのはどれか。1つ選べ。

- a ろう付け
- b 右上6番の鋳造
- c 右上4・5番の鋳造
- d 陶材の焼成
- e グレージング

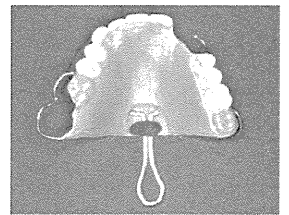


補綴系一問35

問35 76歳の女性。脳卒中発症後、以前から使用していた義歯にある装置を追加することとした。技工中の義歯の写真を下に示す。

追加した装置によって改善される機能を評価する検査はどれか。2つ選べ。

- a 水飲み検査
- b 咬合力検査
- c 発語明瞭度検査
- d ブローイング検査
- e 開口量・限界運動範囲の検査



補綴系一問36

問36 65歳の女性。歯の欠損による咀嚼困難を主訴に来院した。初診時の口腔内写真(A)を別に示す。残存歯には特に問題がなかったため、上下顎部分床義歯を製作し咀嚼機能の改善を図ることとした。

咬合採得時に行う操作で適切なものはどれか。すべて選べ。

- a フェイスボウトランスファー
- b ゴシックアーチ描記
- c 咬合床の使用
- d 安静空隙量の測定
- e 臼歯部人工歯の選択

補綴系一問36



写真A

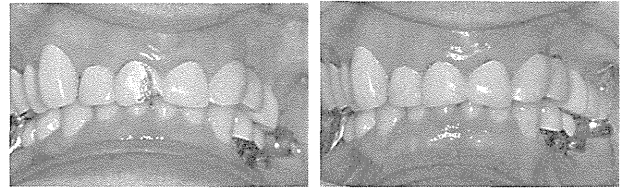
補綴系-問37

問37 43歳の女性。上顎前歯部の修復物の破損による審美性の低下を主訴に来院した。上顎右側側切歯、中切歯および左側中切歯部に硬質レジン前装冠(連結冠)が装着されており、上顎右側中切歯の前装冠が破損していた。口腔内診察およびエックス線検査により、当該部位の歯、歯周組織に著明な問題がないことを確認したため、修復物の補修を行った。処置前(A)および処置後(B)の口腔内写真を別に示す。

補修に際して行ったのはどれか。すべて選べ。

- a シェードの決定
- b モールドの決定
- c メタルプライマー処理
- d シランカップリング処理
- e 歯質のエッチング処理

補綴系-問37



写真A(処置前)

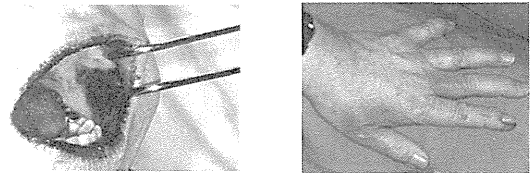
写真B(処置後)

口外系-問38

問38 56歳の女性。口腔内からの出血を主訴として来院した。前日の夕刻から、手指や口腔粘膜に出血斑が発生し消えないという。初診時の口腔内写真(A)と手指の写真(B)とを別に示す。血液検査の結果を示す。

赤血球	: 448万/ $\mu$ l
ヘモグロビン	: 13.7g/dl
ヘマトクリット	: 41.4%
白血球	: 3,800/ $\mu$ l
血小板	: 8,000/ $\mu$ l
好中球(桿状核)	: 4%
" (分葉核)	: 50%
好塩基球	: 3%
好酸球	: 3%
単球	: 5%
リンパ球	: 35%
出血時間	: 15分(基準1~3)
プロトロンビン時間	: 12秒(基準11~13)
Rumpel-Leede試験	: 陽性

口外系-問38



写真A

写真B

診断名はどれか。1つ選べ。

- a 再生不良性貧血
- b 急性骨髄性白血病
- c 播種性血管内凝固(DIC)
- d Plummer-Vinson症候群
- e 特発性血小板減少性紫斑病(ITP)

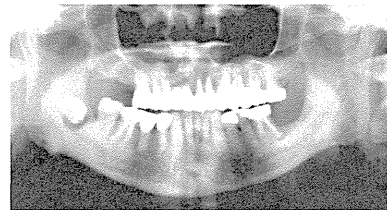
口外系-問39

問39 62歳の男性。下顎右側智歯部の違和感を主訴として来院した。3か月前から違和感に気付いていたが放置していた。昨日、他院でエックス線検査を受け、異常を指摘されたという。同部の歯肉に炎症症状を認めない。初診時のエックス線写真(O)と摘出物のH-E染色病理組織像(B)とを別に示す。

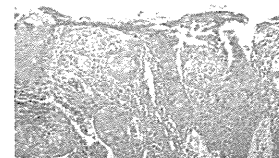
診断名はどれか。1つ選べ。

- a 含菌性嚢胞
- b 扁平上皮癌
- c エナメル上皮腫
- d 角化嚢胞性歯原性腫瘍
- e 石灰化嚢胞性歯原性腫瘍

口外系-問39



写真A



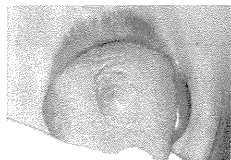
写真B

口外系一問40

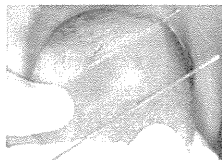
問40 54歳の女性。舌の腫脹を主訴として来院した。幼少期から気付いていたが、機能障害や疼痛がないため放置していたという。弾性軟である。初診時の口腔内写真(A)と検査時の写真(B)とを下に示す。

次に行う検査はどれか。1つ選べ。

- a PET
- b MRI
- c 生検
- d 細菌検査
- e 穿刺吸引細胞診



写真A



写真B

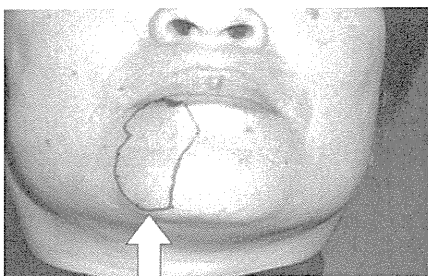
口外系一問41

問41 52歳の女性。下顎右側第三大臼歯部の違和感を主訴として来院した。智歯周囲炎の診断で下顎孔伝達麻酔下に右下8番の抜歯を行った。術後2週を経て、抜歯創の治癒状態は良好であったが、術後に生じた顔面皮膚の知覚鈍麻が持続しているという。顔貌写真を別に示す。

適切な対応はどれか。2つ選べ。

- a 自家神経移植術
- b 星状神経節ブロック
- c カルバマゼピン投与
- d 低出力レーザー照射
- e 頭蓋内三叉神経減圧術

口外系一問41



知覚鈍麻領域

顔貌写真

口外系一問42

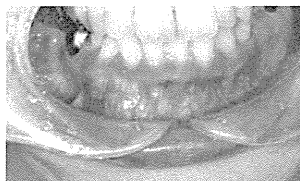
問42 49歳の女性。下顎右側前歯部の違和感を主訴として来院した。

3211の唇側根尖相当部に骨様硬の膨隆を触知する。初診時の口腔内写真(A)、エックス線写真(B)、病変中央部の歯科用コーンビームCT(C)、病変が最も下方に進展した部位の歯科用コーンビームCT(D)及び生検時のH-E染色病理組織像(E)を別に示す。

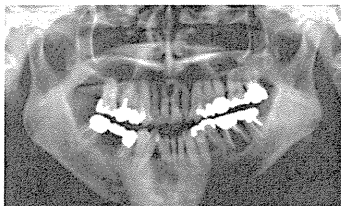
適切な治療法はどれか。1つ選べ。

- a 搔爬術
- b 閉窓術
- c 摘出術
- d 下顎辺縁切除術
- e 下顎区域切除術

口外系一問42



写真A

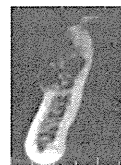


写真B

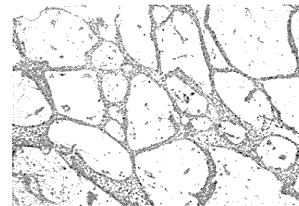
口外系一問42



写真C



写真D



写真E



口外系-問43

問43 25歳の女性。上顎右側第一大臼歯の疼痛を主訴として来院した。当該歯に垂直破折が観察されたため抜歯を行ったところ、直径6mmほどの洞穿孔が確認された。エックス線検査で上顎洞に異常がみられないため、口腔上顎洞瘻閉鎖術を行うこととした。切開線を下に示す。

手術に当たり考慮するのはどれか。1つ選べ。

- a 頬脂肪体の補填
- b 抜歯窩辺縁の骨削除
- c 口蓋側粘膜の広域剥離
- d 頬側粘膜弁の骨膜上剥離
- e 頬側粘膜骨膜弁の減張切開



口外系-問44

問44 38歳の女性。下顎右側の疼痛と腫脹を主訴として来院した。2年前から同部の腫脹に気づき、1週間からは下顎右側第一大臼歯部の自発痛と同部からの排膿とが出現したという。抗菌薬と非ステロイド性抗炎症薬の投与を行い、疼痛と排膿は消退した。初診時の顔貌写真(A)、口腔内写真(B)及びエックス線写真(C)を別に示す。

次に行うのはどれか。1つ選べ。

- a 切開
- b 生検
- c 開窓
- d 根尖切除術
- e 下顎骨区域切除術

口外系-問44



写真A



写真B



写真C

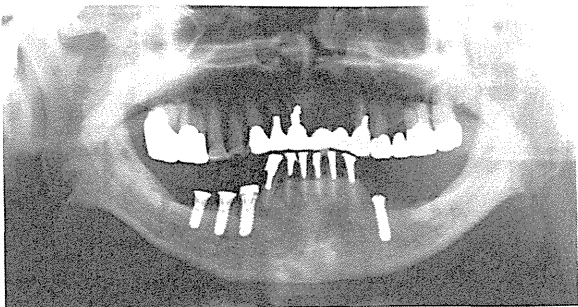
口外系-問45

問45 72歳の男性。右側オトガイ部の知覚鈍麻を主訴として来院した。3週前にインプラント埋入手術を受けたという。初診時のエックス線写真を別に示す。

まず行うべき対応はどれか。2つ選べ。

- a レーザー照射
- b インプラント除去
- c カルバマゼピン投与
- d ビタミンB<sub>12</sub>製剤投与
- e 副腎皮質ステロイド投与

口外系-問45



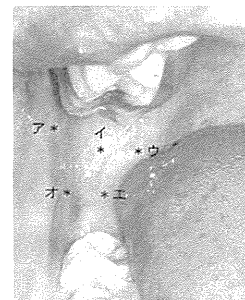
初診時エックス線写真

口外系-問46

問46 25歳の男性。埋伏した下顎右側第三大臼歯を抜去するために伝達麻酔を行うこととした。開口時の口腔内写真を下に示す。

注射針の刺入部位で適切なのはどれか。1つ選べ。

- a ア
- b イ
- c ウ
- d エ
- e オ



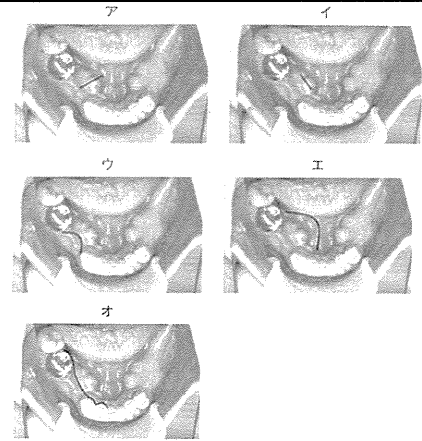
口外系-問47

問47 65歳の男性。義歯の製作を希望して来院した。下顎義歯を製作するにあたり、右側の歯槽骨整形術を行うこととした。切開線の写真を別に示す。

適切なのはどれか。1つ選べ。

- a ア
- b イ
- c ウ
- d エ
- e オ

口外系-問47



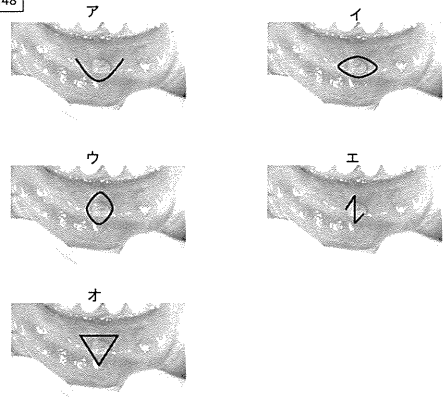
口外系-問48

問48 14歳の男子。下唇部の腫瘤を主訴として来院した。潰れて消退しても再発を繰り返すという。切除術を行うこととした。腫瘤部の切開線の写真を別に示す。

適切な切開線はどれか。1つ選べ。

- a ア
- b イ
- c ウ
- d エ
- e オ

口外系-問48



口外系-問49

問49 65歳の女性。下顎智歯の抜去を希望して来院した。高血圧症でβ遮断薬を内服中であるという。8万分の1アドレナリン含有2%リドカイン塩酸塩1.8ml局所麻酔カートリッジを使用することとした。

使用可能なカートリッジ数の上限で正しいのはどれか。1つ選べ。

- a 1本
- b 3本
- c 5本
- d 7本
- e 9本

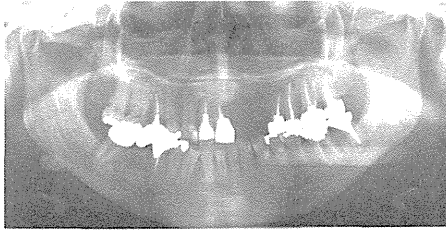
口外系-問50

問50 60歳の女性。右側顎下部の違和感を主訴として来院した。初診時のエックス線写真(A)とそのトレース図(B)とを別に示す。

点線で示される陰影の原因と考えられるのはどれか。1つ選べ。

- a 舌骨
- b 左側下顎隆起
- c 右側顎下腺唾石
- d 下顎左側大白歯の修復物
- e 下顎右側大白歯の骨硬化

口外系-問50



写真A



写真B

口外系-問51

問51 1歳6か月の男児。生後2か月からHotz症による哺乳障害の改善と顎発育誘導を行っている。口蓋形成術を行うこととした。術中の写真を下に示す。

矢印の部分はどれか。1つ選べ。

- a 口蓋粘膜
- b アデノイド
- c 鼻中隔粘膜
- d 上顎洞粘膜
- e 下鼻甲介粘膜



口外系-問52

問52 パノラマエックス線検査の位置づけを別に示す。正しいのはどれか。1つ選べ。

- a ア
- b イ
- c ウ
- d エ
- e オ

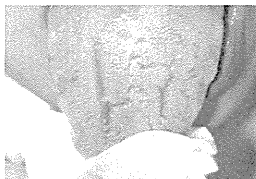
口外系-問52



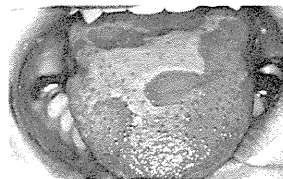
口外系-問53

問53 舌の写真を下に示す。写真Aと写真Bで共通するのはどれか。すべて選べ。

- a 自発痛はほとんどない。
- b 糸状乳頭の消失がみられる。
- c ビタミンB欠乏によって生じる。
- d 鉄欠乏性貧血患者にみられる。
- e 副腎皮質ステロイドホルモン剤が有効である。



写真A

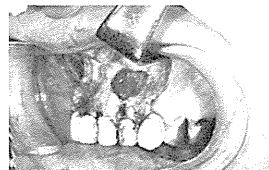


写真B

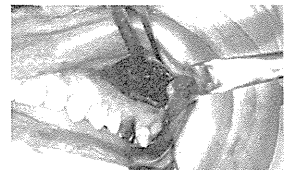
口外系-問54

問54 粘膜骨膜弁作成の術中写真を下に示す。写真(A)が写真(B)よりも優れている点はどれか。すべて選べ。

- a 歯肉退縮がない。
- b 瘻痕が目立たない。
- c 広い視野が得られる。
- d 弁の血行が十分である。
- e 縫合糸が緩んでも骨欠損部が口腔と交通しない。



写真A



写真B

歯科医師国家試験における技術能力の客観的評価に関する研究

研究代表者 齊藤 力（新潟大学大学院医歯学総合研究科）

研究要旨： 歯科医学・医療技術の進歩等に伴い、歯科医師として習得すべき知識や技術が大幅に増加するなかで、講義等に費やす時間の増加により、臨床実習時間の減少や質の低下が指摘されており、歯科医師国家試験に合格しても、臨床研修を実施するための基本的技術能力が担保されていないのではないかと危惧されている。そこで本研究では、現在の臨床実地問題が、歯科医師としての基本的技術能力を評価しうるものであるかの検証を行うとともに、よりの確に技術能力を反映しうる臨床実地問題の出題方法・出題形式、解答形式等を検討することを目的とした。

平成 24 年度に作成した模擬臨床実地問題をベースに、前年の分析結果に基づき必要最小限の修正を加えた A 系列、これに選択肢の見直し、解答形式の変更等の改変を行った B 系列の 2 種類の模擬問題（保存系 20 問、補綴系 17 問、口腔外科系 16 問）を作成した。

これを 4 歯科大学・歯学部 の 6 年生 297 人を対象に無作為に割り付けて模擬試験を実施した。A・B 系列ともに、全体の正答率および保存系、補綴系、口腔外科系の全 3 領域の正答率において臨床実習評価（偏差値）と有意な相関が認められた。

各模擬問題の正誤状況と臨床実習評価（偏差値）を Pearson の相関係数により分析したところ、A 系列では計 6 問、B 系列では計 6 問で有意な相関を認めた。一方、各模擬問題毎に臨床実習評価（偏差値）に対する識別指数（ $\phi$ ）を算出したところ、識別指数 0.2 以上を示す問題が A 系列では 12 問、B 系列では 8 問が抽出された。

平成 24 年度の分析結果および今回抽出された問題等の分析検討を通じ、できるだけ生臨床実習で遭遇する頻度の高い症例（場面）を優先すること等を求めた「臨床実地問題作成上の留意点」を作成した。

今回、「臨床実地問題作成上の留意点」を作成したが、臨床実地問題をよりの確に技術能力を反映しうるものとして改善していくためには、問題数および対象者数を拡大しながら継続的に検証を続けていくこと、および歯科医師としての基本的技術能力の客観的評価指標等の確立、均てん化が必要不可欠である。